



HEROES ヒーローズ

逆境を勝ち越えた英雄たち

ベートーベンを通して語る池田先生

人生は、山あり、谷あり。だが、今の苦闘には深い意味があると確信していくことだ。強盛な信心の一念がある限り、宿命も必ず使命に転じられる。

3面から続く

世の中から歓喜を拒まれた人間が自ら歓喜を造り出す。それを世界に贈りものとするために。

池田先生が「バイリンシユタツ」の遺稿を「ベートーベン」の遺稿と見做し、その後この筆を走らせた。正徳、青年時代、代々傳へた作曲家の家に来る。ベートーベンと、常に語り合っている。思い出し、し、この地に出る。1989年1月、バイリンシユタツで。

「なぜベートーベンが好きか」と先生が語ったことがある。それは「人間らしい生き方をしたからです。」

「まるで悩みの多いもの人間、世の中から歓喜を拒まれたその人間がみずから歓喜を造り出す。それを世界に贈りものとするために。彼は自分の不幸を用いて歓喜を贈り出す。」

「ベートーベンは、人間として、芸術家として、自分は最高の生き方をしている」と自負していました。ゆえに聖徳であろうと、権力者であろうと、無礼なことをすれば、いふことをきかなかった。

「なぜベートーベンが好きか」と先生が語ったことがある。それは「人間らしい生き方をしたからです。」



「ベートーベンは、人間として、芸術家として、自分は最高の生き方をしている」と自負していました。ゆえに聖徳であろうと、権力者であろうと、無礼なことをすれば、いふことをきかなかった。

「なぜベートーベンが好きか」と先生が語ったことがある。それは「人間らしい生き方をしたからです。」

「ベートーベンは、人間として、芸術家として、自分は最高の生き方をしている」と自負していました。ゆえに聖徳であろうと、権力者であろうと、無礼なことをすれば、いふことをきかなかった。

大林組

つくるを拓く

MAKE BEYOND

【引用・参考】ロマン・罗兰著『ベートーヴェンの生涯』片山敏彦訳（岩波書店）、メイナード・ソロモン編『ベートーヴェンの日記』青木やよひ・久松重光訳（同）、ルイス・ロックウッド著『ベートーヴェン 音楽と生涯』土田英三郎・藤本一子監訳、沼口隆・堀明平訳（春秋社）、大木実著『美しい音楽を作った人々』（さ・え・ら書房）、バリー・クーバー原著監修『ベートーヴェン大事典』平野昭・西原稔・横原千史訳（平凡社）ほか